

創業のすすめ



篠原 祥哲*

1. はじめに

歴史を振り返ってみますと、科学上の新しい発見が新しい技術を生み出し、経済を発展させ、私たちの生活を豊かなものにしてきました。蒸気機関の発明が多様な交通手段や電力の利用を可能とし、半導体の発明が現在のインターネットや携帯電話の普及に繋がりました。そして今、技術進歩の速度がますます加速し、一方社会のニーズが多様化して、商品のライフサイクルがだんだん短くなりつつあります。

高度技術活用の巧拙が、経営技術の優劣と共に競争の勝敗を決める時代になりつつあります。ヒト・モノ・カネに並んで、ナレッジの質と量、その使い方が鍵となる知識資本主義の時代だと言われています。従って、大学での先端技術の研究成果と社会で使われる新しい商品やサービスが、時間的にも距離的にも近くなり、結びつきやすくなっています。

研究成果を社会に役立て、経済や社会を豊かにし、その一部を報酬として得て、更に研究を深めるといふ好循環を生み出す機会が増えつつあります。

2. NPOおおさか大学起業支援機構の設立

経済学部と同窓会長として新しい企画を考えていたことと、朝日監査法人(現あずさ監査法人)の副理事長を退任する予定で時間の余裕が生まれそうなことから、先端技術の研究成果が社会を変えよとの信念で、大学発ベンチャーを育てようと思いを固めました。

これまで公認会計士として40年間、超大企業から中小企業まで、数多くの会社について監査やコンサルティングをしながら、その栄枯盛衰を目の当たりにして得た経験や知識を社会に還元しようと思ってきました。

研究成果の起業化を支援し、社会に貢献した成果を優先して研究者に還元させ、更に研究を進め深めるといふ好循環を作り出そうと考え、そうした組織にはNPOが最適だと判断しました。

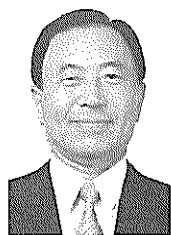
大阪大学卒の財界人の方々と相談し、総長を始め各研究科長などの協力を得て、平成14年11月に特定非営利活動法人おおさか大学起業支援機構を設立することができました。

3. 支援により創業した大阪大学発ベンチャー

おおさか大学起業支援機構は、当大学発ベンチャーの起業化支援を行うために、大阪大学の各組織である先端科学イノベーションセンター、大阪TLO・大阪大学事業部門、阪大フロンティア研究機構、阪大イノベーションファンド、社団法人生産技術振興協会と連携協力しています。

支援活動で創業した企業は、現在のところ下記の8社です。

- ①「薬効ゲノム情報株式会社」平成14年10月設立、資本金1,000万円、主な事業は、遺伝子解析を含む臨床試験に関するコンサルタント、遺伝子解析に基づく医薬品等の開発技術情報の提供、遺伝子情報データベースを用いた医薬品適正使用情報の提供と、それを行える人材の育成です。
- ②「ナノフォトン株式会社」平成15年2月設立、資本金2,000万円、主な事業は、超微細技術(ナノテク)を活用して、人間の細胞を生きのまま観察できる世界初のSHG光学顕微鏡を始め、ナノレベルの研究に役立つ光学顕微鏡の開発、製造、販売です。ギネスブックの科学の部冒頭にある世界一小さな造形物もこの会社の製品です。独創的な製



* Yoshinori SHINOHARA
1935年3月生
大阪大学大学院経済学研究科修士課程卒業
現在、特定非営利活動法人おおさか大学起業支援機構、公認会計士代理理事、(経済学修士)
TEL 06-6347-1521
FAX 06-6347-1525
E-Mail shinohara@adomini.co.jp

品で市場を開拓し、上場を果たしたいと努力しています。

- ③「株式会社白川アソシエイツ」平成15年5月設立、資本金1,000万円、主な事業は、情報通信技術の共同開発および共同事業、設計製造に関するコンサルティング、情報システムの企画、立案、開発などです。今、ICタグの導入コンサルティングに力を入れています。大学発ベンチャー第1号先駆者である白川功名名誉教授の第2弾ベンチャーです。
- ④「株式会社ヒューマンデザインオーソリティ」平成15年7月設立、資本金1,000万円、主な事業は、若年者を対象としたキャリアスキルアップ支援、若年者を対象としたプロジェクトマネジメントの標準スキル指標「プロジェクト・ワーク・アビリティ検定準拠によるビジネス研修です。
- ⑤「株式会社アイキャット」平成15年11月設立、資本金6,400万円、主な事業は、歯科用インプラント手術支援システムの開発、インプラント手術支援用具の開発、インプラントに関する医療用具の開発、義歯および歯科用インプラントに関連する新技術の開発とその商品化です。インプラント手術支援のトップランナーとして、5年以内の上場を目指しています。
- ⑥「株式会社セキュアウェア」平成16年4月設立、資本金2,450万円、主な事業は、構造解釈に基づいたセキュリティプログラムの開発で、バッファオーバーフローの脆弱性をつく攻撃を検知し防ぐ商品の事業展開を図ります。市販のアンチウイルスソフトとは異なり、基本原理部分でのウイルスを排除するプログラムで、情報家電や携帯電話などに対応できるものを開発しています。
- ⑦「株式会社ナノフォトンクス研究所」平成16年5月設立、資本金400万円、主な事業は、ナノフォトンの技術を使って、レーザーナノバイオ応用、

レーザーナノ粒子応用、レーザーナノ加工応用等、の技術コンサルティングです。

- ⑧「株式会社サインポスト」平成16年9月設立、資本金4,060万円、主な事業は、生活習慣病に関するテーラーメイド医療システムを構築すること、生活習慣病の遺伝因子と環境因子から複数の危険因子を抽出することにより、生活習慣病の発症リスクを診断するツールを開発し、診断結果に対応する予防及び重症化防止のための治療システムを構築する。また生活習慣病で構築した因子疾患病に対するテーラーメイド医療システムの普及を実現する。

上記のほか、数件のプロジェクトの起業化・会社設立を支援中です。

4. 創業のすすめ

研究成果を商品化し、事業に育てるまでの道程には、広い海や深い谷があって、それらを乗り越えて行かなければなりません。決して簡単なものではなく、安易な気持ちでは越えることはできません。商品化や市場開拓に当たって、資金の調達、人材の確保(特にリーダーシップのあるCEO)、取引先の選定、法律、税金などすべてのことに適切な選択が必要です。しかし、難しいからと言って諦めては何も始まりません。簡単でないからこそ、それに挑戦する意味があり、乗り越えることの達成感が大きいのです。あなたの素晴らしい研究成果を社会に役立てるために、またその成功の果実を得るために、是非起業に挑戦して下さい。最大の支援を致します。

起業しても、すべての会社が上場を目指す必要はありません。研究成果の果実を上手に得るため、知財を管理し、研究費を増やすため無駄な税金を払わないで済ます会社であっても良いでしょう。

起業しよう、会社を作ろうと思ったら、まず相談して下さい。最初の判断と選択が非常に大切です。

